

平成17事業年度に係る業務の実績に関する報告書

平 成 1 8 年 6 月

国 立 大 学 法 人
三 重 大 学

目 次

○ 大学の概要	1
○ 組織図	2
○ 全体的な状況	4
○ 項目別の状況	
大学教育の向上	
1 教育の向上に関する目標	8
(1) 教育の向上に関する目標	10
(2) 教育の向上に関する目標	16
(3) 教育の向上に関する目標	20
(4) 教育の向上に関する目標	23
2 研究に関する目標	26
(1) 研究に関する目標	29
(2) 研究に関する目標	31
(3) 研究に関する目標	34
(4) 研究に関する目標	45
・大学の教育研究等に関する特記事項	48
業務運営の改善及び効率化	
1 業務運営の改善及び効率化に関する目標	50
2 業務運営の改善及び効率化に関する目標	53
3 業務運営の改善及び効率化に関する目標	54

○ 大学の概要

(1) 現況

大学名

国立大学法人三重大学

所在地

三重県津市

役員の状況

学長名：豊田 長康（平成16年4月1日～

組織図(平成16年4月現在)

三重大学	事務局	総務部	総務課	
			広報室	
			人事課	
			安全対策室	
			研究支援課	

学部	医学部	医学科	事務部	学務事務室
				総務課
				経営管理課
				医療サービス課
		看護学科	事務部	

全体的な状況

法人化2年目の17年度は、前年度にレールの敷かれた学長を中心とするトップマネジメント体制を基礎として、「中期目標・中期計画」の着実な達成に向け、教育研究等の改革に努めたが、同時に8月の人事院勧告や政府の総人件費改革に対応するため、一層の効率化と将来構想の検討を重ねた一年であった。以下、17年度における具体的な取り組みの状況を要約的に記述する。

1. 「中期目標・中期計画」を達成するための基本的枠組みの整備・充実
 - (1) 16年度の年度計画の実施状況に関する自己点検評価をベースとしながら、17年度計画・業務目標に関するPDCAのマネジメントサイクルを全学的に学内全部署で回す仕組み

学官連携、知的財産戦略推進に努めた結果、共同研究や受託研究、奨学寄附金の件数・金額の増加、職務発明届出、特許出願件数の増加などの成果を得た。

5. 情報分野における活動状況

研究成果の情報発信、学術機関のリポジトリ基盤整備目的の附属図書館・総合情報処理センターから成る「学術情報ポータルセンター」を18年度から発足させるための組織・規程を作成し、スタッフの充実を図った。また、セキュリティに配慮した高度・堅牢なITネットワーク環境を向上させるため、ワイヤレスネットワークを順次整備する計画を立て、優先順位を定めて整備を開始する一方、アカウント管理サーバーの本格稼働により、全学的アカウント管理の効率化・一元化を実現した。同時に教職員証へのICカード導入により、身分証明書機能、入退室管理システムとしての

項 目 別 の 状 況

1 大学の教育研究等の質の向上
教育に関する目標

中 期 目 標	○（教育全体の目標） 「感じる力」「考える力」「生きる力」がみなぎり、地域に根ざし国際的にも活躍できる人材を育成する。 ・（教養教育） 「感じる力」「考える力」「生きる力」とその基盤となるコミュニケーション力や豊かな教養と学問の基礎的素養を学際的な広い視野のもとで育成する。 ・（学部専門教育） 「感じる力」「考える力」「生きる力」とその基盤となるコミュニケーション力を、各学部専門領域の学究を通して育成する。 ・（大学院教育） 学際的・独創的・総合的視野を基盤にした専門的研究を通して、地域・国際社会に貢献できる研究者
------------------	--

の研究の発展に貢献できる 研究能力を培うとともに、 地域・国際社会のニーズに 対応できる高度専門職業人 を育成する。			
--	--	--	--

大学の教育研究等の質の向上
1 教育に関する目標
(1) 教育の成果に関する目標

中期目標	1 (教育成果の検証) 教育目標に基づき本学が提供する教養教育・専門教育の成果を多面的に検証する。
------	--

中期計画	年度計画	計画の進捗状況等	
(教育成果の検証) 【1】教育成果の基礎評価として単位修得状況、進級・卒業状況、資格取得状況、学位取得状況、進路・就職状況などについて点検評価を行い、その向上に努める。	【1】教育関係の基礎データを集約するデータベースを整備し、その基礎		

育カリキュラムや教育指導方法等を改善する。

ラムの点検を行う。全学的F D活動を展開するとともに、各教育組織に特有のF D活動を実施する。

った。その結果を踏まえP B L教育の実施を核にして学生の満足度、能動的な学習力の向上を図る教育指導方法の改善のために平成17年7月と平成18年3月に全学的なF Dを行うとともに、共通教育及び全学部でそれぞれ複数回のF Dを実施した。

大学の教育研究等の質の向上
1 教育に関する目標
(2) 教育内容等に関する目標

中期目標	1 (アドミッションポリシー) 地域・社会に貢献するという明確な目的意識と独創性を持ち、学力に加えて、真摯に学修する意欲のある学生を受け入れることを目指して、選抜方法の多様化などの改善を図る。 2 (教養教育・学部専門教育カリキュラム) 「感じる力」「考える力」「生きる力」とその基盤となるコミュニケーション力を豊かな教養と専門領域の学究を通して涵養するカリキュラムの充実に努める。 3 (大学院教育カリキュラム) 地域・国際社会に貢献できる研究者・高度専門職業人を育成するカリキュラムを学際的・独創的・総合的視野に基づき提供する。 4 (教育指導方法) 教育目標に基づき、学生の自己形成を支援
------	---

カリキュラム) 【8】国語力、実践外国語力、情報受発信力、発表・討論・対話力等を修得するカリキュラムにより、コミュニケーション力を涵養する。	究実践支援プログラムの成果も生かして、「感じる力」「考える力」「生きる力」とその基盤となるコミュニケーション力を総合的に培うPBLチュートリアル教育の実施計画を作成し、試行的実施を進める。 【8-2】実践英語教育を開始する。共通教育に日本語コミュニケーション科目を開設するとともに、授業内容として日本語表現法の導入について検討するなど、共通教育、専門教育を通して、コミュニケーション力の涵養のため、国語力、実践外国語力、情報受発信力、発表・討論・対話力等を身につけることができるカリキュラムや教育方法について検討し、可能なところから実施を図る。
---	--

--	--

--

--

